

藤沢市の補助事業について

令和7年4月より、帯状疱疹ワクチンが定期接種になりました。藤沢市ではワクチン費用が一部助成され、対象の方にははがきが届きます。令和7年度の対象者は、

令和7年度に

- | | | |
|-------|-------|--------------|
| ● 65歳 | ● 80歳 | ● 95歳 |
| ● 70歳 | ● 85歳 | ● 100歳 |
| ● 75歳 | ● 90歳 | ● 101歳以上になる方 |

です。

他のワクチンを打つ場合は？

注射生ワクチンを接種後に、注射生ワクチンを接種する場合は、27日以上の間隔をおかなければいけません。

インフルエンザワクチン、コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチンは、生ワクチンではないので、接種間隔の一一律の制限はありません。

令和2年10月1日から、異なる種類のワクチンを接種する際の接種間隔のルールが一部変更されています。詳しくは下記二次元コードから検索することができます。



●厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou_kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/index.html



おくすり相談薬局とは？

おくすり相談薬局とは、藤沢市薬剤師会が提案する身近な医療提供施設としての**かかりつけ薬局**のことをいいます。人々の健康意識が高まるなか、薬局が地域の方々の健康のよりどころとなるように取り組んでいる薬局です。

おくすり相談薬局には、適切な**OTC薬**※の販売、受診勧奨、保険調剤、正しい医薬品に対する知識の啓発、薬剤性フレイルの予防、在宅における服薬管理・支援などに対応し、市民の健康を生涯を通じてサポートする地域の薬剤師がいます。

※OTC薬とは、処方箋がなくても購入ができる薬のことです。

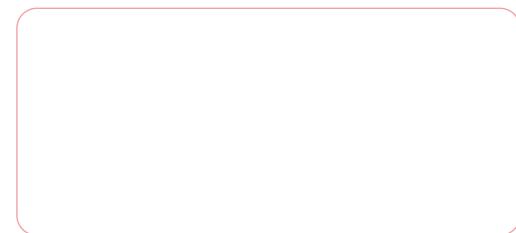
下のシールが目印になります



右の二次元コードから
検索できます。



地域のかかりつけ薬局・おくすり相談薬局



帯状疱疹 ワクチン って何？



藤沢市の**助成事業**と**帯状疱疹ワクチン**について
薬剤師がわかりやすくまとめています！

- 藤沢市「高齢者帯状疱疹ワクチン予防接種」
[https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kenko-z/kenko/kenko/documents/tajyouhoushin.html](https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kenko-z/kenko/kenko/kenko/documents/tajyouhoushin.html)



一般社団法人
藤沢市薬剤師会

✓ 帯状疱疹の理解度check!!

問題 1

以前、帯状疱疹になったことがあるけれど、50歳を過ぎていたら予防接種は受けられますか？

A. 接種できます。一度なった方でも、体の免疫機能が低下すると再びなる可能性があります。(接種は50歳から可能。定期接種の対象は65歳以上)

問題 2

帯状疱疹はうつる？うつらない？

A. 周囲の人に帯状疱疹としてうつることはありません。しかし、水痘・帯状疱疹ウイルスに対する免疫を保有していない人には感染する可能性があり、そのときは水疱瘡を発症します。



帯状疱疹ワクチンの種類を知ろう！

帯状疱疹ワクチンには生ワクチン、不活化ワクチンの2種類があり、いずれか1種類を接種します。

	♥ 生ワクチン (乾燥弱毒性水痘ワクチン「ビケン」)	★ 不活化ワクチン (シングリックス筋注用)
接種回数(接種方法)	1回(皮下)	2回(筋肉内)
助成による自己負担額	¥4,500(1回/税込)	全2回 ¥11,800(1回/税込)
接種スケジュール		通常、2か月以上の間隔を置いて2回接種(必要に応じて接種間隔を1か月まで短縮できます)
接種できない方	病気や治療(※)によって、免疫が低下している方	免疫の状態に関わらず接種可能
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方	血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方
ワクチンの予防効果	接種後1年時点 接種後5年時点 接種後10年時点	6割程度 4割程度 7割程度

※プレドニゾロン、シクロスボリン、タクロリムスなどの免疫抑制剤を飲んでいる方は薬の量や病気の状態によって接種できない場合があります。生ワクチンを接種する場合は主治医へ相談してください。

藤沢市ホームページより抜粋

● 帯状疱疹とは？

帯状疱疹は、子どもの頃にかかった水ぼうそうのウイルスが原因で発症します。ウイルスは体内の神経に潜み続け、加齢や疲労、ストレスなどで免疫力が低下すると再活性化し、皮膚に赤い発疹や強い痛みを引き起こします。

特に50歳以上の方は発症リスクが高く、

70歳代で最も多くみられます。早期に適切な治療を受けることで、痛みを軽減し、合併症を防ぐことができます。

予防策として、帯状疱疹ワクチンの接種が推奨されています。ワクチンを接種することで、発症リスクを低減し、万が一発症しても症状を軽くすることができます。



● 帯状疱疹の症状は？

ウイルスが感染した神経が支配する領域の皮膚の疼痛と皮膚病変(水疱形成)が主な症状です。北海道での研究によると、60歳以上の帯状疱疹患者のうち、3.4%が入院を要したとされます。重症化を予防するためにも、症状がみられる場合は、すみやかに医療機関を受診してください。